

令和6年度 国分寺市立第五小学校 学校経営計画

国分寺市立第五小学校 校長 齋藤 晃

1 はじめに

「緑の森に囲まれて、白い校舎に旗高く」と校歌に歌われる自然豊かで落ち着いた環境に恵まれた国分寺市立第五小学校は、昭和38年4月に創立された。地域・保護者・教職員の協力により、令和5年度に開校60周年記念行事を執り行い、今年度は開校61年目となる。

国分寺市第二次教育ビジョンでは、第一次の教育ビジョンを受け、国分寺市教育委員会の教育目標を基本理念に掲げ、それを具現化する「目指す学びのまちの姿」を「人と人がつながり、学びが循環するまち」としている。その実現を目指して、「生きる力の育成」「学校教育環境の充実」「社会全体の教育力の向上」「歴史遺産をいかした学びの推進」の4つの施策の方向性が示されている。

第五小学校は、この教育ビジョンを実現させることができる学校であり、保護者や地域の方々の期待に応えるべく教育目標の実現に努力を重ね、文武両道に活躍する輝かしい五小の伝統を築いてきた。現在では、通学路を中心に取り組む地域見守りボランティア活動に支えられ、保護者・地域の理解と協力のもと継続している赤米づくり、昔遊び、地域の施設・商店への見学・取材等の取組をはじめとする学習活動が定着し、学校の特色ある教育活動となっている。教職員には第五小学校と五小学区の地域としての歴史と伝統を認識し、子どもたち一人一人に本校児童であることの誇りと自信を醸成しつつ、今後も本校の教育が一層向上充実するよう全力で職務の遂行に努めることが期待されている。

令和2年度からは、これまで築き上げてきた学校・保護者・地域の関係を基盤に、国分寺市立第五小学校コミュニティ・スクールとして新しい時代に力強く生き抜く児童の育成に努めてきている。令和5年度には、それまでの実践についてCSフォーラムで市内小中学校と地域に向けて発信した。「人と人がつながり、学びが循環するまち」の学校として、地域で育ち地域の一員としての自覚と、将来は地域に貢献しようとする高い志をもった児童をひとりでも多く地域社会に送り出すことを使命とし、特色ある教育の改善と更なる充実を今後より一層図る必要がある。

現在、地球規模で現代社会が抱える様々な課題解決のための取組が国連を中心に進められている。本校においてもこれらの課題を自らの問題と捉え、身近なところから取り組み、その解決につながる新たな価値観や行動を生み出すことで、持続可能な社会を創造できる児童を育成するための教育を推進しなければならない。その解決のためには、引き続き情報化、グローバル化、AI社会に対応できる新しい時代に必要となる資質・能力を確実に育むことが必要である。さらに、令和3年12月10日に制定された「すべての人を大切にするまち宣言」にある通り、全ての人が個人として尊重され、多様な生き方を相互に認め合う中で、児童の自尊感情を育み自己有用感をもってやり遂げる力を培うこと、特別支援教室拠点校として個に応じた指導を適切に行い、学習活動の充実を多面的に図ること、自他の生命と人格を尊重する心と実践する力を育むことも、本校の教育活動の基盤として大切にしていきたいことである。

本校全教職員は“チーム五小”の一員として自己の職責を自覚し、「人と人がつながり、学びが循環するまち」の学校としての使命を果たすべく協働し、本校の教育の充実と発展を第一の目標とする。

2 めざす学校像

- | | |
|---------------------------|------|
| (1) 児童が主体的に学び活動する学校 | 【成長】 |
| (2) 教職員が協働して教育活動を創造していく学校 | 【協力】 |
| (3) 保護者や地域から信頼される学校 | 【信頼】 |

児童一人一人が自分のよさや可能性を見だし、豊かな人生を切り拓き、より良い社会・持続可能な社

会の創り手・支援者になるための資質・能力を育む教育活動を推進する。

また、人と人がつながり、学びが循環する様々な教育活動を地域社会と共に実践するコミュニティ・スクールとしての構築とその維持に努める。

3 教育目標 < 学校の教育目標 > ◎本年度重点目標

元気な子	健康な心と体をもつ児童の育成
やりとげの子	協力して最後まで頑張る実践力のある児童の育成
◎考える子	すすんで学び、深く考え、行動できる児童の育成
思いやりのある子	互いに理解し合い協力し合って豊かに生きていく児童の育成

4 目指す教職員

(1) 児童、保護者、地域の方から信頼される教職員

- ① 教育公務員としての自覚をもち、サービスを遵守し秩序ある行動を行う。
- ② 目的や思いをもって教育活動を展開し、情報発信や説明責任を果たす。
- ③ すすんで保護者や地域の方々にあいさつを行い、誠意と感謝をもって対応する。

(2) 教育への情熱、創意工夫と向上心をもつ教職員

- ① 日々の授業や職務を常に自己評価し、研鑽に励み、評価に基づき改善を図る。
- ② 前例踏襲ではなく、よりよいものを創造する意識をもって職務にあたる。
- ③ 児童理解に努め、児童一人一人の力を伸ばす指導を行い、児童の変容・成長を喜び、児童・保護者と感動を共有する。

(3) 組織の一員として学校運営に参画できる教職員

- ① 職種・職層に応じて課題発見に努め、課題解決への提言や取組を行う。
- ② 各委員会・各部会の委員長・部長はリーダーシップを、成員はフォロワーシップを発揮し、全教職員が学校運営に参画する意識と同僚を尊重する気持ちをもち、有機的・組織的な取組を行う。
- ③ 教職員相互が報告・連絡・相談・記録、円滑なコミュニケーションを行い、組織として問題解決にあたり、学校力を高める。
- ④ 各教職員は互いの仕事を尊重し合い、お互いの心身の健康とワークライフバランスを考えながら勤務する。

5 中期的目標と方策

「めざす学校像」と<学校の教育目標>を鑑み以下の3点を中期目標とする。

本年度の重点目標「考える子」を中心に、進んで学び、深く考え、行動できる子どもの育成を目指す。

中期的目標	目標達成に向けての中期的方策
(1) 考え、豊かに表現し、実践できる力を育成する。	○発達段階に応じた学び方を指導し“主体的に学ぶ意欲”を引き出し、「学びに向かう力」を育む。 ○基礎基本の反復学習を習慣化する。

<p>学校は、保護者・地域と連携して児童一人一人が意欲的に学習活動に取り組むことができるよう、個性や習熟度に応じた指導の工夫を行い、「学びに向かう力」を育て、自己実現を図ることができる資質や能力を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭・地域と連携して、学習活動の充実と学習及び運動習慣の定着を図る。 ○言語活動を楽しむ体験を通して豊かに表現し、学んだことを生かして実践できる力を育てる。 ○学習指導要領及び年間指導計画に基づいて計画的に指導し、客観性と信頼性ある評価を行う。
<p>(2) 地域社会との連携を深めた教育活動を展開する。</p> <p>児童の人間性は、学校・家庭・地域社会でのあらゆる活動の中で培われる。学校は、地域のコミュニティセンターとして教育情報の積極的な発信に努め、“地域ぐるみの危機管理意識”を醸成する。それとともに、「してもらう」側から保護者・地域と「共に成す」ことで児童が健やかに成長する教育活動を工夫できるシステムの構築を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティ・スクール（CS）協議会・コーディネーター部会とPTAを中心に意見を集約し、地域の期待に応える学校づくりや、地域と連携して実践を重ねている教育活動を発展的に定着させるシステムの構築を推進する。 ○地域の自治会や防災会等と連携して学校及び地域の防犯防災意識の高揚を図る。 ○地域の特色を生かした「国分寺学」の実践について共に検討する形で小・中連携教育を推進する。 ○特別支援教室拠点校として、特別支援教育に関する教職員の理解を深め、理解啓発の活動を推進する。 ○全教職員一人一人が危機意識を高くもち、問題行動への対応や健康・安全に関する課題を看過せず報告・連絡・相談を行い、保護者や関係諸機関と連携し、組織的かつ迅速・的確な初期対応を行う。 ○開校60周年を記念した行事等の作成資料・データの保存等に努める。
<p>(3) 人権尊重の精神を育成し、豊かな心を育てる教育を充実する。</p> <p>学校は、保護者・地域と連携して一人一人の児童が尊重され、いじめや暴力、差別、偏見のない人権尊重の精神に貫かれた学校、学年、学級づくりを推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○規範を尊重し、思いやりと相互の共感・信頼に基づく温かい学校、学年、学級をつくり、豊かなかわりを育む。 ○道徳科を要として多様な価値観や自他のよさに気付いて自尊感情を高め思いやりの心を育てる。 ○学校・家庭・地域のいずれの場面においても日々の挨拶や言葉遣いの指導を行うことにより、言語環境を整え、場に応じた適切な態度・言動で人とかかわりをもてるよう育む。

6 今年度の取組目標と方策

令和3年度はESD及びSDGsについての研究を行い、持続可能な社会の創り手を育成するための指導計画としてのESDカレンダーを作成した。生活科や総合的な学習の時間を中心にして取り組んだ、児童の学ぶ心に火をつける具体的な事例・手立てを工夫してきた実践とESDカレンダーも、「国分寺学」の研究に生かすことができる。また、令和4年度からの校内研究は、これまでのNIEや図書資料・GIGAスクール構想による1人1台のタブレット端末活用を十分に活用できる情報活用能力を基礎から伸ばすことをねらいとして、国語科を中心に取り組み、その力を育てることができる指導力・授業力を教員一人一人に養う研

究としてきた。「国分寺学」においても、課題を自ら設定し、解決の仕方や調べ方を工夫し、まとめていく過程で、情報活用能力は児童に大いに発揮させたい力であり、それを指導する力も教員に求められる。令和6年度の校内研究は、ここ3年間の研究とのつながりも生かしながら、早急に形にする必要がある。

また、コロナ禍の生活上の制約がなくなった今、地域の人材や教材を活用した教育活動を改めて推進することにも、校内研究及び「国分寺学」はつながっている。指導計画を吟味し、カリキュラムマネジメントを生かした無駄のない効果的な学習活動を、保護者・地域・コミュニティ・スクール協議会の理解や協力を得ながら実施する。

そして全学年において、《五小スタンダード》に基づき学習や学校生活のルールを徹底を図り、落ち着いて学べる教室環境を整えるとともに、タブレットや新聞、事典・図書等の資料活用能力を高めながら、どの時間にも共通する学び方と多様な表現方法を指導し定着させ、「豊かなかかわり」の場を保証し、変化に対応できる「生きる力」を育てる。

《五小スタンダード》

- ① 学習規律を徹底させる。 ※「はい・立つ・です」
- ② 本時の流れが視覚的によく分かる板書計画をたて、どの時間も「めあて」と「まとめ」を明示する。
- ③ 視覚的に落ち着いて学習に集中できる教室環境を整える。
※教室前方面には教育目標と学年目標、前方右側には「話し合いのルール」（「声のものさし」・ハンドサイン・話型）のみを掲示する。
※学級目標は教室側面、または背後面に掲示する。
- ④ 生活規律を徹底させる。
※気持ちよい挨拶
※廊下の安全歩行※後片付け（靴・掃除道具・廊下物かけ）
- ⑤ 家庭と連携して学年発達段階に応じた毎日の家庭学習（10分×学年）と運動習慣を定着させる。
- ⑥ 「危機のサイン」を見逃さない。「報告→連絡→相談→報告」を確実に行う。
- ⑦ 家庭・地域との連携を密にし、課題は組織で対応する。自分一人で抱え込まない。

(1) 考え、豊かに表現し、実践できる力を育成する。

《本年度の取組目標》	《目標実現のための具体的方策》
<p>◎考え、豊かに表現する力を育てる教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○持続可能な社会の創造・開発を進めるために必要な知識や技能、思考力、判断力、表現力等を習得する活動の充実を図る。 ○情報活用能力を育成するための活動を充実させる。 ○豊かな表現力と実践できる力を育成する。 ○読書を含めて図書資料を用いた学習活動の充実を図る。 ○基礎学力の確実な定着を図る。 ○基礎体力の確実な定着を図り、運動への意欲を高める。 ○学習や生活の様子を発信し、家庭との共通理解を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティ・スクールとして持続可能な地域教材の開発や地域人材の活用を恒常的に進め、SDGs達成のためESDの活動により作成したESDカレンダー（指導計画）を、「国分寺学」の観点から検証する。 ○新聞づくり、プレゼンテーション資料の作成等を行い、すすんで情報を収集・活用・発信する力と言語能力につなげる。 ○4年生の2学期から5年生の2学期末にかけて、週1回のペースで新聞記事を読み、家庭とも連携して、自分の考えを書く活動と新聞づくりに取り組む。 ○全教員が1人1台のタブレット端末やICTを活用した授業改善を図る。 ○地域の図書館・学校司書、保護者・地域と連携した読書活動及び言語活動を推進する。 ○生活科・総合的な学習の時間を中心に、地域について理解し働きかけることができる児童の育成を目指して「国分寺学」に関する校内研究に取り組む。 ○東京ベーシックドリルを活用し、未習熟事項を残さず指導し、反復学習の習慣化を図る。 ○板書をノート指導に反映させ、「分かる授業」を構築する。 ○学習成果物には赤ペンを入れ、児童の努力と課題に適切な評価を丁寧に伝え、達成感を体験させ、学ぶ意欲を育てる。 ○体力調査の考察をもとに、体力向上のための「一学級一取組」を推進するとともに、休み時間の外遊びを奨励する。 ○学習や生活状況についての情報を積極的に発信し、家庭との連携を強化する。 ○教科担任制の導入の趣旨を生かし、学年内・外での交換授業を積極的にを行い、担任以外も学級に関わる機会を増やす。

(2) 地域社会との連携を深めた教育活動を展開する。

《本年度の取組目標》	《目標実現のための具体的方策》
<p>◎保護者・地域と連携した学習や活動の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保護者・地域からの情報を生かし、児童が地域のためにできる学習活動を模索し、開発する。 ○地域・保護者と協力して周年行事・防災に対する組織的な対応を構築する。 ○小・中連携教育の推進を図り、各教科等において授業改善を進め、学力の向上を図る。 ○巡回校と連携し、特別支援教室に 	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティ・スクール協議会等の意見を生かして、地域の期待に応え連携を図る教育活動の発展的継続を推進する。そのために、活動ごとに引き継ぎ資料を作成し、地域とも共有する。特に、児童が国分寺市という地域を知り、好きになること、愛校心をもつことが活動の根底を支えるようにする。 ○児童が、地域の活動に積極的に参加できるよう地域・保護者に対して協力を求め、双方向の情報の提供を行う。教員も地域行事に参加し、「地域の一員」としての自覚をもつ。 ○地域の自治会や防災会等と協力して、児童の防犯防災に対する対応力を育成する。 ○学校の様々な教育活動を通じて地域の人々などと触れ合う学習を計画し、多様な価値観や生き方に触れる機会をつくる。

<p>おける教育活動及び、校内での特別支援教育の充実を図る。</p> <p>○学校は積極的に情報発信する。</p>	<p>○小・中連携事業として一中学区小中学校において「国分寺学」の研究を進めるとともに、授業改善等を行い、児童の学力向上を目指す。</p> <p>○教職員の共通理解を必要とする児童への支援について情報収集や研修内容の充実を図り、実態に応じて理解教育を推進する。また、必要に応じて保護者・児童・地域への情報提供を行い、特別支援教室への理解と巡回指導内容の充実を図る。</p> <p>○ブログやスクールメール、「スクール・リレーション」等を活用し、常に先手を打つ形で情報を発信する。</p>
---	---

(3) 人権尊重の精神を育成し、豊かな心を育てる教育を充実する。

《本年度の取組目標》	《目標実現のための具体的方策》
<p>◎豊かな心を育てる教育の充実</p> <p>○自尊感情の向上を図る。</p> <p>○学校や学級への帰属意識を高める。</p>	<p>○「自分を大切に 友だちを大切に 一人一人を大切に 国分寺を大切に」を五小の合言葉に、互いのよさを認め温かい声掛けのできる学級づくりを行う。</p> <p>○学校教育全体を通しての道徳教育に継続して取り組む。「道徳科の記録」を教室内の壁面に掲示し、学級ごとに授業のキーワードとなった言葉を書き加える。</p> <p>○「国分寺市立第五小学校いじめ防止等のための基本方針」に基づいた教育活動を徹底し、年間3回の研修の成果を生かしていじめの未然防止、早期発見、早期解決を実践する。</p> <p>○保護者・地域と連携し、学校・家庭・地域での適切な言葉遣いと挨拶のできる環境を整え、実践力を育てる。</p> <p>○クラブ活動や児童会活動、縦割り班活動等の異学年活動を通して学校や学年学級への帰属意識を高めながら交流を深め、他を思いやる気持ちを育む。</p>